

---調べ学習にインターネット教材を利用して---

阿久津由香 佐々木和也 ○清水裕子 (宇都宮大)

目的 社会のあらゆる分野において、情報化が急速に進められている現在、学校教育においても、情報化の流れは避けて通ることができない。2002年から実施される新学習指導要領でも、情報化社会に対応し、インターネットなどのネットワークを活用した授業や活動を積極的に行うことが求められている。本研究では、実践授業を通して、コンピュータ、マルチメディアを家庭科教育にどのように利用していけばよいか考えることとした。

方法 「インターネットを利用した調べ学習を行っても、子ども向けのホームページがなかなか見つからない」、「教材を買うのは予算がかかりすぎる」等の調査時の意見（第52回大会発表）をもとに、インターネット上に公開できる教材を製作した。今回はインターネットに公開したそれらの教材の内、小学生用教材「ミシンぬいをしよう」、「便利なふくろを作ろう」を宇都宮大学附属小学校の「世界でたった一つのをミシンで作ろう」の授業、中学生用教材「布の性質」、「クリーニング」、「洗たくを考える」を上三川町立本郷中学校の「衣服材料に応じた日常着の手入れ」の授業において調べ学習に利用した。授業の前後に児童・生徒にアンケート調査を行い、評価した。

結果 児童・生徒は、調べる内容に合わせ、一人一人が自由に教科書、資料、インターネット教材などを選択し、自ら進んで主体的に調べていた。アンケートの結果から、インターネット教材を利用することで、子どもの興味・関心を高め、生徒一人一人に応じた学習ができることがわかった。さらに、今後は個別化への対応、内容の充実、インターネットの双方向性の利用などを検討したい。